

令和2年京都市はたちを祝う記念式典 二十歳の誓い

小学生の頃、ふとしたキッカケで遠足の班長になりました。班長会議に出席して、みんなのために行動することが楽しく、リーダーというものに興味を持ち始めました。元々人を惹きつけ輪の中心にいるタイプではなかった私が、リーダーになる為には周りに嫌われないように振る舞い、周りに合わせ明るく楽しく振舞うことが重要だと考えていました。中学生徒会長時代の私は、ひたすら自分の感情を押し殺し、周りからどう見られるかばかり気にしていました。

そんなリーダーを演じていた私でしたが、高校生の時、自ら仕事を立ち上げた起業家の本を読んですごく感動し、何かを成し遂げるには「普通じゃない、特別」なことが重要なんだと気づかされました。周りに合わせるのではなく周りの人とどうかかわるか、そして習慣で生きている毎日の自分を少しずつ変えてみるということを始めました。

高校では「ラオスに学校を建てようプロジェクト」に参加して、販売で得た収益金でラオスの子ども達に文具や日用品を送ったり、熊本地震の時もすぐに募金活動を行いました。自分が置かれた立場で、自分ができていることを積極的に、一生懸命取り組んできました。

そういった中学高校での経験がきっかけで現在大学では政治学を専攻し、法律家を目指して学んでいます。今でも「普通じゃない、特別」という言葉が大好きで、高く目標として掲げています。しかし、実際の自分はまだまだそこには追いつけていないという葛藤があります。こうして今舞台上でスピーチをしても、本来の自分はこんな人前で話す人間ではない、という素の自分と演じている自分とのギャップを感じています。

しかし、これから法律や政治に携わる仕事をするにおいては、存在自体が表現となる自分を目指すことが重要だと思います。そのために様々な人の意見を聞いて判断する「聞く力」を身に付け、自分の考えを的確に相手に伝えられるよう言葉を磨き、将来の目標に向けて励むことを二十歳の誓いとさせていただきます。

令和2年1月13日 新成人代表 吉川 史也